2020年度　自己評価表（京都ホテル観光ブライダル専門学校　ホテル学科）

1. 学校の教育目標

【態度・姿勢】ホテル学科共通
1.人に奉仕し、人をもてなし、人を幸せにするホスピタリティマインドを習得している。
2.ホスピタリティ業界で求められる社会人基礎力（挨拶、笑顔、身だしなみ、自分で考え自分で動く）を身に付けている。
3.どんな状況にも適応し、最後まで諦めずに対応できるストレス耐性、柔軟性、積極性を身に付けている。

【知識・技能】宿泊サービスコース
1. ホテル宿泊部門の中核的専門人材として能動的な行動が活躍できる専門知識・技能を習得している。
2. 清潔・快適・安全な宿泊環境および質の高いサービスを、関連セクション間の連携のもと提供できる、実務的な知識やスキルを習得している。
3. HRS3級取得のために必要とされるホテル、レストラン、宴会サービスにおける実務に必要な知識やスキルを身に付けている。
4. グローバル社会に通用する情報活用能力とコミュニケーション能力および、企業利益に貢献できるマネジメント能力・マーケティング能力を習得している。

【知識・技能】料飲サービスコース
1. ホテル料飲部門の中核的専門人材として能動的な行動が活躍できる専門知識・技能を習得している。
2. 料飲施設の演出家として、サービスを担当するあらゆる職種に必要とされる、実務的な知識や素養を習得している。
3. HRS3級取得のために必要とされるホテル、レストラン、宴会サービスにおける実務に必要な知識やスキルを身に付けている。
4. グローバル社会に通用する情報活用能力とコミュニケーション能力および、企業利益に貢献できるマネジメント能力・マーケティング能力を習得している。

【知識・技能】上級ホテルコース
1. 上質なホスピタリティサービスをトータルコーディネートできる専門知識・接客技能を習得している。
2. 世界から訪れるお客様の満足度を高めるために必要な接客対応力と語学力を習得している。
3. HRS3級取得のために必要とされるホテル、レストラン、宴会サービスにおける実務に必要な知識やスキルを身に付けている。
4. グローバル社会に通用する情報活用能力とコミュニケーション能力および、企業利益に貢献できるマネジメント能力・マーケティング能力を習得している。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① アカデミック・インテグリティとホスピタリティマインドの醸成による、人間力向上と強い人材育成に向けた取り組み
② 思考力、判断力、表現力の向上に向けた主体的・対話的なアクティブラーニングを取り入れた職業教育の推進
③ グローバル化に適応する語学力向上と多様性を理解した接客スキルを身に付けた人材育成のための取り組み
④ 資質向上のための外部研修、関連委員会への積極的な参加と、退学防止に向けたクラス運営とサポート体制強化のための取り組み
⑤ 業界・職種・京観校の魅力の積極的な情報発信による募集力強化と、就職の4指標の高レベルでの実現に向けた教職協働の取り組み
⑥ カテゴリーリーダーにふさわしい全国トップレベルの検定合格・認定実績の維持・向上のための取り組み

3.評価項目の達成及び取り組み状況

（1）. 教育理念・目標

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	(4) 3 2 1	4	体系化した学園理念の下で教育理念・教育綱領を明確にして、さらには学科・コースごとに3ポリシーを定めている。さらに「カリキュラムマップ・カリキュラムツリー」を策定し、教育課程を体系的に示している。教職員と学生双方が本校での2年間で何を学び、何を身に付けるのか、卒業後の姿をより明確にイメージにすることで教育効果を高められるよう取り組んだ。	・教育理念 ・3ポリシー ・カリキュラムマップ ・カリキュラムツリー
2	・ 学校における職業教育の特色は何か	(4) 3 2 1	4	それぞれの職業に必要なスキル教育だけに視点を置くのではなく、その前に「人間として必要なことがある」ということを重視するとともに、独自のカリキュラム内容で演習・実習等を中心に実践的な授業を展開している。特に、人の幸せを自分の幸せと考えることができるホスピタリティマインドの涵養について重きを置いている。なお、ホームページの「ごあいさつ」の部分に学科ごとの教育方針を記述している。	・学則の教育課程（カリキュラム） ・ホームページ「ごあいさつ」ページ ・キャリエール・クール・スタンダード
3	・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	(4) 3 2 1	4	10年後を見据えた学園ビジョン（長期経営目標）、学園の中期経営計画（中期経営目標）、各年度の学園事業計画を基に、本校の事業計画を、さらには学部、各学科の事業計画に具体的な目標設定をしてその達成に向けて取り組んでいる。また、それぞれの目標設定の際には社会経済の動向予測やニーズなどの把握をして計画を策定するとともに、産業界と連携した教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会を開催している。	・学校事業計画
4	・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 (3) 2 1	3	学生ポータルサイトやWEBシラバスに掲載するとともに、HPにも求める人材像や3つのポリシーを掲載している。 保護者向けの発信強化にはまだ取り組めていない。	・学生ポータルサイト ・WEBシラバス ・ホームページ「ごあいさつ」ページ ・ホームページ「養成する人材像と各学科ポリシー」ページ ・ホームページ「職業実践専門課程」ページ ・定期試験保護者宛結果発送 ・保護者アンケート
5	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	(4) 3 2 1	4	産業界と連携した教育課程編成委員会を毎年実施し、業界の動向を学校のカリキュラムに反映させている。 学校事業計画をもとに各学科事業計画を策定し、上期終了時に中間チェックを行っている。	・学校事業計画

① 課題

・あらゆるステークホルダーに対して、教育理念や目標を積極的に発信していき、学校がどのような知識や能力をもって社会の期待に応えるかを分かりやすく周知する必要がある。

② 今後の改善方策

・ホームページはもちろん、入学前のオープンキャンパスや在学中の保護者説明会、就職先事業所への学校説明の際に、ディプロマ・ポリシーを積極的に発信する。教育課程編成委員会での助言や提言を次年度のカリキュラムに活かし、また、保護者に対して学生の在学状況（各種学校行事や授業の取り組み状況等）を適宜発信する。
・保護者アンケートの結果を施策に反映する。
・教育課程編成委員会外部委員の意見や時代の変化を踏まえ、2022年度生よりコースの統合及びカリキュラムの再編成を行う。

③ 特記事項

・ホームページで教育理念、3ポリシーなどを積極的に情報公開するとともに、保護者向けには学生の成績情報や資格取得状況、就職状況を案内している。

（2）. 学校運営

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	4	長期経営目標、中期経営計画、学園事業計画、学校事業計画を体系的に策定している。	・長期経営目標 ・中期経営計画 ・学園事業計画 ・学校事業計画 ・学園ホームページ
2	・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	4	各部署事業計画を学校事業計画に沿って毎年度、策定している。	・学園事業計画 ・学校事業計画
3	・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1	4	法人の管理規則に明記され、規則に則り運営されている。 また、管理規則は適宜更新され、その都度教職員に周知徹底されている。	・コンプライアンスマニュアル（管理規則）
4	・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	4	法人において、人事規程、人事考課規程を定めている。 人事規程、人事考課規程は適宜更新され、その都度教職員に周知徹底されている。	・コンプライアンスマニュアル （給与規程、人事規程、人事考課規程）
5	・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	4	法人の管理規則、経理規程に則り整備されている。 管理規則、経理規程は適宜更新され、その都度教職員に周知徹底されている。	・コンプライアンスマニュアル （管理規則、経理規程）
6	・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	4	法人において、グループ・ガバナンスを構築し、全教職員にコンプライアンスマニュアルを共有し、周知徹底を図っている。	・コンプライアンスマニュアル（管理規則、庶務規程、情報セキュリティポリシー、プライバシーポリシーなど）
7	・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	4	入学案内書、ホームページなどを通じて、情報公開している。	・入学案内書 ・ホームページ
8	・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1	4	リプレイスしたグループウェアおよび独自の業務支援システムを活用し効率化を図っている。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、Google Workspace for Educationを活用し、遠隔授業や在宅勤務、WEB会議を取り入れた。	・グループウェア ・業務支援システム ・Googleclassroom

① 課題

・各種システムに関する教職員個々の理解度に差があるので、全体の理解度を高めていくことで、様々な業務で電子化を促進する。

② 今後の改善方策

・新システム（Google Workspace for Education）についてはマニュアル等の作成・活用や担当間のコミュニケーションを増加させ、更なる業務の効率化を図っていく。
・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、在宅勤務やオンライン会議・授業、子育て世代の支援など新たな取り組みを積極的に取り入れ実践し成果を継続して積み上げていく必要がある。

③ 特記事項

・各種規程・規則をまとめた「コンプライアンスマニュアル」において組織の意志決定や人事、給与に関する規程、セキュリティポリシーなどを定め、コンプライアンスの周知徹底をはじめリスクマネジメントの強化など、公正かつ透明性の高いグループ・ガバナンスを構築している。
・学園ではCSV（社会との共通価値の創造）推進委員会を立ち上げ、学生の環境保全や地域貢献に対する意識の向上につなげるべく、学生参加のSR活動を積極的に展開している。

（3）. 教育活動

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1				昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	4	建学の精神、教育綱領、3ポリシーなどの教育理念より、養成する人材像を明確にし、教育課程を体系的に策定している。	・養成する人材像 ・3ポリシー ・アセスメントポリシー ・学生ポータルサイト
2	・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	4	ポリシーに沿ったカリキュラムを編成し、1,700授業時間以上を確保している。あわせてアセスメントポリシーを策定し、カリキュラムの見直し、改編を行っている。	・3ポリシー ・アセスメントポリシー ・授業時間数一覧
3	・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	4	3ポリシーに沿ったカリキュラムを編成し、2年間を4期に分けて、毎年、カリキュラムを見直し、改編を行っている。あわせてカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し、体系的な学びを構築している。	・授業時間数一覧 ・カリキュラムマップ・カリキュラムツリー
4	・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1	4	現場同様の施設・設備を利用した実践的な授業や、学外での各現場と連携した授業を企て、実施している。	・シラバス
5	・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1	4	業界団体、企業より教育課程編成委員を任命し委員と共に、カリキュラムの作成・見直しを行っている。	・教育課程編成委員会報告書
6	・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1	4	1年次夏の学科全学生対象のインターンシップは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、派遣中止とし、冬に希望制で京滋地区のホテル・旅館において、インターンシップを実施した。	・インターンシップ報告書
7	・ 授業評価の実施･評価体制はあるか	④	3	2	1	4	全ての授業を対象に授業評価を実施している。	・授業評価アンケート見本
8	・ 職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1	4	冬のインターンシップ終了後の事業所訪問時にインタビュー形式での調査を行い、評価を含め、その情報を元に、今後のカリキュラムを含めた教育に活用している。また、外部関係者から学校関係者評価委員を任命し、委員からの評価を反映させている。	・インターンシップアンケート見本 ・学校関係者評価委員会報告書
9	・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	4	各科目60点以上を単位認定としている。 また、本校独自の卒業要件として、「卒業要件ポイント」を設けている。	・学則
10	・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	4	国家検定のレストランサービス技能検定やホテル・接遇関連資格の取得を目標に、1年次のカリキュラムから各授業を設定している。	・授業時間数一覧
11	・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1	4	毎年の授業評価の結果をもとに、各科目の担当教員の見直しを行っている。また、関連事業所とのネットワークを通じて、より魅力的で指導力の高い教員を確保している。	・授業評価アンケート結果
12	・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1	3	関連事業所からの講師派遣や人材派遣会社、現教員のネットワーク強化を図り、常に優れた教員の提供先を確保しているが、5年、10年先を見据えた計画的なマネジメントという点においては、今後さらなる対応が必要と考える。	・教員編成一覧
13	・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1	4	夏季休暇時を中心に、幅広く研修を企画、実施し、教職員の経験年数や能力に合わせて受講しているほか、外部のセミナーへの参加、各種関連資格等への取組みも実施している。	・研修一覧
14	・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	4	夏季休暇時を中心に、幅広く研修を企画、実施し、教職員の経験年数や能力に合わせて、受講させている。	・研修一覧

① 課題

・国家検定となる「ホテル・マネジメント技能検定」の資格取得対策について、実施のタイミング、回数、内容等十分に検討し、カリキュラム改編も視野に入れた対策強化にむけて、継続して取り組んでいく必要がある。
・先を見据えて、優れた教員確保に取り組んでいく必要がある。

② 今後の改善方策

・国家検定主催協会からの情報収集や、担当いただく非常勤講師との連携を図り、結果に結びつく効果的な対策について、準備をすすめていく。あわせて、カリキュラム検討委員会においては、対策実施タイミングなどについて十分に検討を図っていく。
・事業所、講師派遣企業等との連携を図り、カリキュラム編成に応じた教員の確保をすすめていく。

③ 特記事項

・コロナ禍、感染防止の対策を徹底しながら、可能な範囲でのホテルや関連施設訪問を通じて、業界や職種の理解に努めている。

（4）. 学修成果

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 就職率の向上が図られているか	(4) 3 2 1	4	各クラス担任と就職部とが連携し、サポート体制を強化し、就職指導科目の充実を図っており、毎年高い就職率を維持している。コロナ禍、オンライン説明会や選考が活発となったため、オンラインのサポートに取り組んだ。	・入学案内書 ・ホームページ「就職実績」
2	・ 資格取得率の向上が図られているか	(4) 3 2 1	4	主要検定については、強化検定とし、対策授業や試験直前授業などを企てるとともに、e-Learningなども効果的に利用しながら、高い取得率を維持している。	・入学案内書 ・ホームページ「資格・検定」
3	・ 退学率の低減が図られているか	(4) 3 2 1	4	出欠動向や普段の学習態度などをしっかりと把握し、定期的な個人面談を実施し、担任によるサポートに力を入れている。 また、臨床心理士による学生カウンセリング（希望者のみ）を実施し、学生に対しきめ細かに対応している。 学費については高等教育修学支援新制度の対象校になるなど継続してサポートの充実を図っている。2020年度の退学率は5.0%であった。	・在籍状況報告書 ・カウンセリングシート
4	・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1	3	事業所アンケートを実施するとともに、定期的な同窓会報の発信や同窓会ホームページなどにより、卒業生の動向把握に努めている。	・事業所訪問履歴
5	・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	(4) 3 2 1	4	各事業所への訪問活動や卒業生によるセミナー・3年に1度の卒業生アンケートなどを通じて、卒業後のキャリア形成の効果の把握に努めている。	・卒業生アンケート

① 課題

・卒業生の活躍、評価の把握にさらに努める必要がある。

・在学中から職業観を醸成させ、早期離職の防止に努める必要がある。

② 今後の改善方策

・卒業生自身が、近況報告していくように、従来からの同窓会報やHP、元担任とのつながりに加えて、SNSなどを効果的に利用していく。また、同窓会などのイベントを通じて、卒業生との接点を広げていく。
・卒業生がお世話になっている事業所を中心に、卒業後のキャリア形成への効果について伺う機会（訪問やアンケートなど）を設けていく。

・基礎学力向上講座や就職試験筆記対策（一般常識問題対策）などの授業により、学習方法の理解や継続学習の習慣をつけさせる。オンライン選考に勝ち抜く能力を身に付けさせる。
・本校独自の奨学金制度や高等教育修学支援新制度のなどを入学前より、しっかりと告知し、計画的な学費納入を保護者ともども、考えていただくようにする。

・自身の将来像をしっかりと描かせるためにも、卒業生や業界人などのキャリアモデルを見せ、魅力ある体験談などを聞かせる。また、教職員自体が憧れの存在となるように人間的魅力の向上に努める。
・正しい業界・職種・事業所理解と自己理解のもとで的確に希望職種・企業を選択・受験し就職できるよう指導・サポートしていく。

③ 特記事項

・資格検定の取得を卒業要件とすることで学生のキャリアアップと就活力の向上を図っている。

（5）. 学生支援

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1	4	就職サポート専属の部署と各クラス担任とが連携し、就職関連授業や個人面談を通じて、就職支援体制を整えている。	・業務分掌
2	・ 学生相談に関する体制は整備されているか	(4) 3 2 1	4	担任制度を設けており、日々の学生動向の確認とともに、全学生対象の学生面談を実施している。また、カウンセリング制度を設け、カウンセラーによる相談も可能にしている。	・業務分掌 ・教務規程
3	・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1	4	独自の特待生・奨学生制度や学費延納制度、教育ローンの紹介などの対応をしている。また、教育訓練給付金や専修学校専門課程修学支援制度など国や都道府県が実施している奨学金事業も積極的に学生に案内を行っている。加えて、高等教育新修学支援新制度の対象校として学生への対応を行った。	・大和学園奨学金給付規程
4	・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1	4	校医を1名配置している。また、前期・後期に健康チェックシートを提出させ、学生の健康状態の把握に努めている。	・検査結果 ・健康チェックシート ・アンケート集計結果
5	・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1	4	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、京都府専修学校各種学校協会の体育大会は中止となり、資格検定についても6月は中止となったが、夏以降については例年通り実施し、また関連分野の課外講座なども実施した。	・各報告書
6	・ 学生の生活環境への支援は行われているか	(4) 3 2 1	4	住居の支援体制を整え、入学前の住居斡旋や学生寮の紹介、生活環境の相談など不安の解消にあたっている。また、担任制を敷き、ホームルームの時間を設け、定期的に学生面談等を行っている。	・募集要項
7	・ 保護者と適切に連携しているか	4 (3) 2 1	4	就職活動学年の保護者に対して、就職実績、就職サポートに関する資料を作成、発送し、希望に応じて個別の面談に機会も設けている。また、学生の成績を定期発送しており、問題のある学生の場合は保護者とのやり取りを実施している。	・就職活動サポート資料
8	・ 卒業生への支援体制はあるか	(4) 3 2 1	4	同窓会報やホームページを通じて、再就職サポートに力を入れている。また、直接相談についても随時、受け付けている。また、卒業後もライブラリーを開放し、利用を促している。	・ホームページ「OB・OGサイト」 ・同窓会規則 ・同窓会報 ・情報ライブラリー利用規程
9	・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	(4) 3 2 1	4	社会人を経ての入学生についても、分け隔てなく、サポート、指導している。また、同じ立場の学生同士のクラス分けについても配慮している。 また、社会人を対象とした奨学金制度を設けている。 専門実践教育訓練給付金対象校であり、社会人の学びを学費面でもサポートしている。	・業務支援システムの学生指導歴 ・専門実践教育訓練給付金指定講座認定書
10	・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	(4) 3 2 1	4	高等学校との職業理解やマナー修得を目的に見学会や連携授業を実施している。	・教育提携覚書 ・見学会実施要領

① 課題

・保護者の学校理解（規程、教育、就職サポートなど）促進をさらに努める必要がある。

・卒業生との継続的な繋がりが必要。

・新型コロナウイルス感染防止に向けた取り組みの徹底。

② 今後の改善方策

・資料発送などを通じて、保護者への定期的な情報提供を実施し、本校教育の取り組みに対する理解促進につなげていく。

・卒業生に対するサポート体制を在学中はもちろんのこと、卒業後においても、同窓会報やホームページなどで、継続して告知、発信し、理解促進に努める。

・学生の経済支援・生活支援について、外部の奨学金の情報のさらなる入手、担任との面談等を通じたやり取りを行い、学生支援の充実を図っていく。

・保護者向けのポータルサイトを立ち上げ、学校からのお知らせや各種サポート制度、学校生活の様子や授業内容などがタイムリーに情報提供できるようにする。

③ 特記事項

・学園内でハラスメント防止委員会を配置し、ハラスメントゼロに取り組んでいる。
・HRSサービスコンクールへの参画や出場学生のサポートを行っている。
・就職活動に必要な知識・スキル・マナーを学習する授業がカリキュラム化されている。

（6）. 教育環境

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	(4) 3 2 1	4	修繕については都度対応するとともに、機器の購入や改修については、3年ごとの計画に加えて、長期（10年）の更新計画を立てそれに基づいて施設・設備を更新している。	・施設・設備3ヵ年計画 ・施設・設備10ヵ年計画
2	・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	(4) 3 2 1	4	インターンシップを卒業必修単位として定め、事前指導から評価まで体系的な教育体制を整えている。また、コロナ禍で2020年度の実施はなかったが、海外留学についても制度を設けている。	・インターンシップ報告書 ・入学案内書（海外留学プログラムページ）
3	・ 防災に対する体制は整備されているか	(4) 3 2 1	4	衛生管理者・防火管理者を中心に防火・防災のための点検区分・担当者とその任務及び火気取扱責任者を任命し、体制を整え、防火・防災に取り組んでいる。防火や防災の各種マニュアルを策定し、教職員対象の避難訓練を行った。	・消防計画 ・各種マニュアル（防火・防災・救急・新型コロナ感染防止）

① 課題

・学生や一部の教職員が避難訓練に参加できていない。

② 今後の改善方策

・学生を巻き込んだ避難訓練やホームルームなどを通じて、学生に対して防火・防災の意識を啓発する。
・災害時のマニュアルを作成し、教職員・学生に共有、日頃から防災意識を高める。

③ 特記事項

・継続して学生に防火・防災教育を実施。

（7）. 学生の受入れ募集

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	4	アドミッション・ポリシーに基づき、6月以降にAO入学エントリーを開始し、8月以降に出願受付。その他、一般入試等については、10月以降に出願を受け付けている。	・入学要項
2	・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	4	就職率や資格・検定合格率については、関連部署に確認を取ったうえで入学案内書に掲載している。	・入学案内書
3	・ 学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	4	健全な財務運営や入学者の家計における学費負担などを勘案し、奨学金制度なども含めて、毎年1月に、翌々年度の学納金の額を検討し、決定している。そのことによって学校選択の際には入学希望者があらかじめ学納金を把握できるようにしている。	・入学要項

① 課題

・新型コロナウイルスの感染拡大により対面型の説明会が一部中止・延期になった。

② 今後の改善方策

・業界の魅力や最新の情報を高校生やその保護者、高等学校教員などにWEBを活用して学校の魅力を発信する。

③ 特記事項

・入学希望者は学校選択をする際に学納金の額を確実に把握できるよう、早期に学納金を決定している。
・2020年度から導入された「高等教育の修学支援新制度」について広く説明を行い、学費に困窮する学生に対し学習の機会を確保できるよう案内を行った。
・オープンキャンパスでは、保護者向けに具体的な学費や奨学金制度などを説明し、入学に向けた不安の解消に努めた。
・新型コロナウイルス感染防止のために、WEB（YouTubeやZOOM、Instagram）を活用して学校説明会を実施した。
・コロナ感染が不安な学生に対して「WEB個別相談」を設けて、希望者はWEBで説明会を実施した。
・入学試験も来校型の面接だけではなく、WEB面接も設け、自宅から受験ができるように配慮した。
・新型コロナウイルスによる家計急変世帯に対する本校独自の支援策として、学費の「特別延納・延納制度」を設け、入学手続き時に必要な学費の負担軽減をはかった。

（8）. 財務

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	(4) 3 2 1	4	各学科ともに一定の入学者を確保できており、予算に基づく適切な収支のバランスが保持できており将来を見据えたキャッシュフローも確保でき、財務基盤の強化が図れている。	・2020年度決算書
2	・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1	4	毎年事業計画に則り収支バランスのとれた予算を策定し、執行に際しても管理徹底を行っている。	・2020年度予算書
3	・ 財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1	4	月次報告会を毎月実施し、公認会計士による執行状況のチェックを実施している。	・月次報告会資料
4	・ 財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1	4	決算後の6月1日に学園ホームページにて最新の財務状況を公開している。	・大和学園データ集「学校法人大和学園の財務状況」

① 課題

・18歳人口の大幅減少を見据えた健全な財務運営。

② 今後の改善方策

・新たな教育分野の開拓や定員増等収入の安定確保に繋がる中長期財務計画の策定と取り組み。
・学生生徒等納付金に限らず、補助金や寄付金など様々な収入源を確保する。

③ 特記事項

・特になし。

（9）. 法令等の遵守

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	4	法令遵守はもとより、学園内の諸規程を整備し、すべての規程をコンプライアンスマニュアルという名称で学内ネットワークに掲示し、周知を図って、適正に運営している。学則（教育課程）の見直しは毎年行い、法令に従って都度届出等を行っている。	・コンプライアンスマニュアル ・学則変更届
2	・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	4	個人情報に関する規程を定め、問題が起きた際の対処フローも決めて、徹底を期している。また、学生に対してもSNS利用のためのガイドラインを示すとともに、個人情報保護に関する啓発をしている。	・情報セキュリティポリシー（情報管理に関する規程） ・プライバシーポリシー（個人情報保護に関する規則） ・SNS利用のためのガイドライン ・特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針 ・特定個人情報取扱規則
3	・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	4	多元的点検評価として授業評価、学校満足度調査、卒業生、事業所、保護者に関するアンケート調査を実施し、アンケートで出てきた改善点を学校運営、授業運営に反映している。また、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいた自己評価を実施し、学校関係者評価委員会でも各業界の方々に確認、意見をいただき、今後の目標設定や改善の取り組みに活用している。	・授業評価アンケート報告書 ・自己評価表
4	・ 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	4	自己評価表をHPに公開している。	・ホームページの職業実践専門課程ページ （https://www.kyoto-carriere.ac.jp/greeting/evaluation.html）

① 課題

・特になし。

② 今後の改善方策

・特になし。

③ 特記事項

・定期的に全教職員を対象に情報セキュリティに対する意識向上および正しい知識の定着を図り、
個人情報と情報機器を適切に運用するため、年2回のチェックテストを実施している。

（10）. 社会貢献・地域貢献

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	(4) 3 2 1	4	各種団体に対し、様々な講習会等を実施するために学校の施設を提供している。	（活動例） ・料理番組配信「京名料理人に学ぶ　日本料理教室」 ・京都市観光協会オンラインイベント「京の食文化をたしなむ」 ・宇都宮短大付属高校講習会
2	・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	(4) 3 2 1	4	学生が地域の方々とふれあえるイベントを実施しているが、2020年度は新型コロナの影響で訪問ができなかったので、学生が考案したレクリエーションを高齢者福祉施設に届けた。	（活動例） ・高齢者福祉施設訪問フィードバックシート
3	・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	(4) 3 2 1	4	京都市内の高等学校や中学校に本校の講師を派遣し授業を行っている。また、併設するクッキングスクールで料理・お菓子・パンの講座や年末にはおせち料理やクリスマスケーキの講習会を行っている。	（活動例） ・京都西山高等学校連携授業 ・東宇治中学校「職種理解セミナー」 ・笠木中学校「マナー講座」 ・年末1Dayレッスン

① 課題

・地域に対する公開講座・教育訓練について、専門学校単独事業としては実施数が少ない。
・SDGsについて理解を深め、その趣旨を意識した活動も合わせて行うべきと考える。

② 今後の改善方策

・掲示物やホームページなどでSDGsを意識した情報発信を行い、学生や教職員の理解を促していく。

③ 特記事項

・社会貢献・地域貢献に関する詳細は学園ホームページ（https://www.taiwa.ac.jp/sdgs/）参照。

（11）. 国際交流（必要に応じて）

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考：取り組みの内容	備考：根拠となる資料の内容
1	・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1	4	留学生用の入学要項、奨学金・住居サポートのパンフレットを作成し、留学生対象のガイダンスへの参画や日本語学校への訪問などで募集活動を行っている。 また、在学生に対し海外留学制度を設けている。	・入学要項 ・サポート制度のご案内 ・訪問計画 ・入学案内書「海外留学プログラム」
2	・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1	4	留学生の受入れについて、面接だけでなく面談を行い入学に際しての不安などを確認することで、留学生に安心して入学してもらえるよう案内している。 また、在籍管理等においては各種届出や留学生実態調査に適宜提出し、入国管理局から適正校の認定を受けている。	・留学生実態調査回答用紙 ・適正校認定書
3	・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1	4	教務部において留学生カウンセラー制度を設け、定期的な面談を行い必要に応じアドバイスをしている。	・業務支援システムの学生指導履歴
4	・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④ 3 2 1	4	学内でコンテストを行い、学習成果を披露する場を設けている。2020年度は実施されなかったが例年国内のサービスコンテストに参加し、表彰を受けている。また、イギリスへの海外実務研修を実施しており、ホテルにて業務に携わり、高い評価を得ている。	・海外留学報告書 ・各種資格検定報告書

① 課題

・ホテル学科における留学生の入学実績が少ない。

② 今後の改善方策

・教員向けの説明会や入試制度を検討し、日本語学校とのさらなる連携の強化を図る。
・ガイダンスや日本語学校訪問を積極的に行い、留学生の入学実績を増やしていく。
・卒業後の就職支援を強化すべく、事業所との連携を強化していく。

③ 特記事項

・京都の大学、短大、専門学校や関係者が集まった「留学生スタディ京都ネットワーク」に参画している。
・留学生限定学科（ホスピタリティビジネス学科）を新設し、内部進学による留学生の獲得を目指す。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

長期経営目標・中期経営計画をもとに、学園運営方針、学校運営方針が策定され、教職員が同じ方向を向いて学校運営に取り組んでおり、各制度、システム、体制が整備されている。ホテル学科は、顧客対応に必要な能動的態度とコミュニケーションスキルを強化し、「理論と実際」をより深く融合させた職業型実学教育の充実を図ることで確かな語学力と洗練されたホスピタリティセンスを兼ね備えた世界に通じるホテリエの養成をめざした。特にF＆Bサービス演習の授業におけるランチ営業では、コロナ禍においての感染防止対策を図りながら、入店時の検温、消毒、テーブルの配置、メニューの電子化など、実際の現場同様に、変化に対応できる力の醸成につなげた。そのような中でも能動的な学生の取組みを促進するため、役割分担を学生に任せ、より良いおもてなしを計画させるとともに、毎回の授業で課題の抽出と改善を加えており、自分たちが中心となって展開するレストランとしての意識を高めている。あわせて各業界関連資格については、対策授業や資格サポートシステムなどにより、レストランサービス技能検定では受験者全員の合格、ホテル・マネジメント技能検定では例年以上の高い資格取得実績を残すことができている。今後も、各現場で必要とされる知識・技術等に結びついた資格・検定の取得に注力したい。

また、定期的な授業評価の実施により、各授業の良い点、改善点を見出し、より満足度の高い、そして実践的かつ専門的な職業教育が各授業において実施されている。さらに学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会を通して関連分野の企業や業界団体等とのさらなる連携強化により企業・業界等の要請等を十分にいかしつつ実践的かつ専門的な職業教育の実施につなげていきたい。

就職に関しては、就職率の向上のみならず、就職実績の質的向上についても図られているが、職業観の醸成、企業とのマッチングなどを意識しながら、卒業生の早期離職の防止に努めていく。また、卒業生の活躍や評価を正確にかつ、タイムリーに把握し、それらを職業教育、就職関連授業の改善に活かしていきたい。